



市立貝塚病院の更なる発展を目指して

市立貝塚病院
院長 長松 正章



この度井口正典前院長に代わりまして、4月1日より市立貝塚病院第12代院長に就任させていただきました。大変光栄と思っておりますが、現在の病院の状態を鑑みますと、むしろ緊張し、身の引き締まる思いで一杯です。

市立貝塚病院は昨年、創立70周年を迎えることが出来ました。これもひとえに病院職員の努力と、地域の先生方の連携、さらに地域の皆様の温かいご支援の賜物と思っております。

しかし、全国的な医師不足に伴う地方公立病院の経営危機が、この泉州地域にも及んでいることは既に周知のことと思います。

これは医療費の抑制、新臨床研修システムの導入による医局制度の崩壊によることが主な原因ですが、医療そのものが複雑化し、診察の時間と労働力が格段に増え、その労働加重が医師の疲弊感につながり、勤務医の病院離れをおこしています。

当院もそのあおりを受け、特に内科医の減少がここ数年顕著でこれが病院経営にも大きく影響していました。前総長の小塚先生や現総長の小川先生の尽力で内科医も増えてきました。現在は循環器、消化器、代謝内科、神経内科に加えてこの4月から呼吸器内科の医師も加わってくれることになりました。まだまだ医師確保に努力をしなければなりません。が、一歩ずつ前進し、市民の皆様が安心して内科受診をしていただける体制ができつつあるかと思っております。

新たに形成外科も3月から診療科に加わり、さらには放射線治療の充実のためリニアックの更新が今年度中に実施されます。これにより癌治療がより優れたものになり、癌治療の充実が図れるものと期待しています。

さて当院の今年度の目標は、内科診療の更なる充実と手術数の増加を柱に、病院経営の好転を目指しております。幸い昨年度は全職員の努力で単年度黒字を達成することが出来ました。

しかし今年度は、さらに減価償却を一部入れての黒字を目指さねばなりません。我々職員一同一層の努力と、個々人の意識の覚醒が必要だと感じています。

現在の厳しい病院経営の中では、医師の確保と共に職員が一丸となって、病院経営へ参画していくという(どんな形ででも)意思の高揚が大切なことだと思います。

めまぐるしく変化する社会、医療情勢に迅速に対応し、的確な判断が出来る組織を構築してゆかねばなりません。地域を支える基幹病院として、地域の先生方と密に連携し、良質な医療を市民の皆様へ提供していくことが、我々の使命だと思います。

病院理念である「歓、和、技」の心を持って地域に貢献できるように努力する所存でありますので、引き続き宜しくご支援、ご指導の程お願い申し上げます。私の就任の挨拶とさせていただきます。

形成外科紹介



形成外科医長

もちつき ゆういち
望月 祐一



形成外科とは、創傷治癒(傷の治る過程)を専門とし、体表面における、生まれつきの変形や、病気やケガ、老化によって生じた変形を主に手術によって改善し、機能回復と生活の質(QOL)の向上を目的とする専門外科です。

したがって特定の臓器を治療対象とする外科ではなく、全身の様々な部位の異常や形態変化を治療対象としています。

扱う疾患は多岐にわたりますが、以下の様なものがあります。

- ① 悪性腫瘍とその再建(皮膚癌、癌切除後の変形改善(乳房の再建など)など)
- ② 新鮮熱傷(やけど(小さなものから大きなものまで))
- ③ 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷(顔の骨折、顔のケガなど)
- ④ 体表面の先天異常(小耳症、副耳、唇裂口蓋裂、臍ヘルニア(でべそ)など)
- ⑤ 手足の外傷、先天異常(指のケガ、巻き爪、多指症など)
- ⑥ 皮膚・軟部組織の良性腫瘍(皮膚・皮下のできもの(ホクロ、脂肪腫など))
- ⑦ 悪性腫瘍とその再建(皮膚癌、癌切除後の変形改善(乳房の再建など)など)
- ⑧ 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド(傷あとの修正)
- ⑨ 褥瘡・難治性潰瘍(保存的治療、手術治療を含めて)
- ⑩ その他(逆まつ毛、眼瞼下垂(まぶたの弛み)、腋臭症(ワキガ)、禿髪(ハゲ)など)

このように、頭から足の爪まで、全身の様々な部位が治療対象となります。

当科は、日本形成外科学会専門医が常勤しており、近畿大学形成外科学講座と連携の下、患者さまのお役に立てるよう診療にあたらせていただきます。



スタッフ紹介

望月 祐一(医長)

【経歴】

近畿大学医学部
形成外科学講座

【専門分野】

形成外科全般

【資格】

医学博士
日本形成外科学会専門医

磯貝 典孝(非常勤医師)

【経歴】

近畿大学医学部
形成外科学講座 主任教授

【専門分野】

マイクロサージャリー、
手の外科、再生医療

【資格】

医学博士
日本形成外科学会専門医
日本手の外科学会専門医

遠所 瑞弘(非常勤医師)

【経歴】

近畿大学医学部
形成外科学講座 講師

【専門分野】

乳房再建外科

【資格】

医学博士
日本形成外科学会専門医

コラム 生きる

＝ 大いなる休暇 ＝

市立貝塚病院

総長 小川 道雄

◇負担なくして医療なし

正月休みに、映画「大いなる休暇」をDVDでもう一度見た。カナダのケベック州の離島が舞台。漁業で栄えたが、今は人口125人の無医村で、一番近い病院まで3時間かかる。そこにプラスチック容器の製造工場建設の話。職がない島民は仕事につけると喜ぶ。ただし島に医師が常住していることが条件。ケベック州中の医師に手紙を送るが、全く返事のないシーン。身につまされた。

モンリオールで警官になった前村長が、速度違反と麻薬所持で形成外科医を逮捕。その医師が、1カ月間の奉仕活動で島にやってくることになる。何とか定住させなくては、と島民が団結して大芝居。医師の好みを盗聴までして探り出す。クリケット好きと知れば、見たこともないクリケットを、そろいのユニホームで試合して見せる。釣りが下手と分かれば、大魚(冷凍の)を針につけて釣り上げさせる。

初日に40人の患者の診察をして「中世にタイムスリップしたようだ」と嘆く医師。日本の現状は中世だなあ、と思う。村長は受診制限をかける。

「医療の現状」をテーマに市民講座などに招かれた時、この映画にも触れてきた。私の主張は「負担なくして良質な医療なし」。医療従事者にのしかかる厳しい労働環境、見合わない報酬、クレーム・訴訟の増加は、急には変えられない。現状ではその負担に耐えながら、国民に働きかけて医療体制を改善していく努力が必要だ。一方地域住民の側も、医療従事者が逃げ出さないように、当事者として地域の医療を守る行動を分担してほしい、と続ける。

それから、3年前に結成された「兵庫県立柏原(かいばら)病院の小児科を守る会」の活動を紹介する。

地域の小児科医が皆無になるのを防ぐために、お母さんたちが「コンビニ受診を控えよう」「かかり

つけ医を持とう」「お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう」を合言葉に、立ち上がった。市民側の負担だが、それで地域の小児医療が再生した。この活動は、全国に広がりつつある。

そのあと「ジョークですが」と断って「大いなる休暇」に触れる。この映画は04年のサンダンス映画祭観客賞を受賞し、多くの映画祭で上映された。医師を引き止めるための島民の懸命な努力は、ユーマリアにあふれ、微笑(ほほえ)ましい。

島を気に入った医師が最後の勤務の日に島民は集会を開く。今後も嘘(うそ)をつき続けるか、それとも都会に帰るか。村長と医師の対決。そして…

今回も楽しんだが、以前と違った印象も持った。医師を引き止めたら、美しい島にやがて公害が発生するかも、という皮肉? 次の講演でもこの映画に触れるかどうか、迷っている。



人事情報

在任中は何かとご指導いただき
ありがとうございました。

副院長	中村 正人
内科総括部長	藤田 正和
内科部長	永田 恒久
脳神経センター部長	小林 啓作
泌尿器科医長	森 康範
外科副医長	高田 晃宏
小児科副医長	飛梅 元
眼科副医長	林田 素子

地域医療の推進に努めたいと思
います。よろしくご指導ください！

内科(呼吸器)特任副院長	松井 薫 (1975 年卒)
泌尿器科部長	橋本 潔 (1989 年卒)
形成外科医長	望月 祐一 (2001 年卒)
麻酔科医長	山本 笑梨 (2002 年卒)
眼科副医長	岡村 彰子 (2002 年卒)
外科副医長	岸本 朋也 (2005 年卒)
小児科副医長	竹村 豊 (2005 年卒)

内科(血液内科)顧問
金丸 昭久 (1968 年卒)
(前近畿大学血液内科教授)

異 動 (平成 22 年 4 月 1 日付)

院 長	長松 正章
医療監	井口 正典
診療局長兼泌尿器科部長	加藤 良成
診療局参与兼内科部長	河南 昌樹
診療局参与兼眼科部長	藤井 節子
内科副部長	東 正祥
外科副部長	向坂 英樹
整形外科副部長	石井 崇大
放射線科副部長	上田 忠
整形外科医長	林 淳一郎
産婦人科副医長	釣谷 香揚子
泌尿器科副医長	大関 孝之

今後とも
よろしくお願いたします。

ナイチンゲール生誕を祝う

看護フェア

当院の看護師一同、ナイチンゲールの精神を今一度認識し、患者様や皆様の支えになればと日々努めています。お気軽にご参加ください。

と き	平成 22 年 5 月 15 日(土) 9:00 ~
と ころ	市立貝塚病院 1 階フロア
内 容	9:00 ~ 12:00 蘇生法、乳がん自己検診法 健康チェック(血圧・体脂肪測定など) 手洗法のチェック
	13:30 ~ 14:30 ロビーコンサート



第 3 回 「貝塚循環器 病診連携カンファレンス」

と き 平成 22 年 4 月 15 日(木)
午後 6 時~7 時 30 分

と ころ 市立貝塚病院 7 階講義室

内 容 症例相談

話題提供

『抗血小板薬・抗凝固薬について』

市立貝塚病院

参与兼内科部長 河南 昌樹 医師

司 会 いたに医院 鏑谷 周三 先生

共 催 当研究会・貝塚市医師会

※ 本会は、大阪府医師会生涯研修5単位申請中です。

地域医療連携室報告 (紹介患者数報告)

ご紹介ありがとうございました!
平成 22 年 1 月 256 人ご利用いただきました。
平成 22 年 2 月 280 人ご利用いただきました。

平成 19 年度	月平均	256 人
平成 20 年度	〃	259 人
平成 21 年度	〃	283 人 (4 月~2 月)



※ 左記報告は地域医療連携室を通じての件数です。
当連携室をご利用くださいます。ありがとうございます。
ご紹介いただきました患者様の件などで、お気づきの事がございましたらご指導ください。

今後ともよろしくお願いたします。

※ お問い合わせ 地域医療連携室

☎ 072-438-5522